

株 主 各 位

第155期定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

当社は、第155期定時株主総会招集ご通知に際して提供すべき書類のうち、以下の事項につきましては、法令および当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.yamato-hd.co.jp/>）に掲載することにより株主の皆様提供しております。

- 連結計算書類の連結注記表…………… 1～8頁
- 計算書類の個別注記表…………… 9～13頁

ヤマトホールディングス株式会社

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

(1) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の数 39社

主要な連結子会社の名称

ヤマト運輸(株)	沖縄ヤマト運輸(株)	ヤマトグローバルエクスプレス(株)
ヤマトロジスティクス(株)	ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)	YAMATO TRANSPORT U.S.A., INC.
ヤマトホームコンビニエンス(株)	ヤマトシステム開発(株)	ヤマトフィナンシャル(株)
ヤマトリース(株)	ヤマトオートワークス(株)	ヤマトボックスチャーター(株)
雅瑪多管理(中国)有限公司	雅瑪多(香港)有限公司	YAMATO ASIA PTE. LTD.

② 非連結子会社等

子会社のうち、OTL ASIA SDN. BHD. 他の非連結子会社は、総資産、営業収益、当期純利益および利益剰余金等がいずれも重要性に乏しく、全体としても連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。

(3) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した関連会社の数 19社

主要な会社等の名称

GD EXPRESS CARRIER BHD. Packcity Japan(株) 広州威時沛運集団有限公司

なお、GEDE ADVISORY INDONESIA他1社は、持分法適用会社であるGD EXPRESS CARRIER BHD. が新たに株式を取得したことにより、当期から持分法適用の範囲に含めております。

② 持分法を適用しない非連結子会社および関連会社

持分法を適用していないOTL ASIA SDN. BHD. 他の非連結子会社およびYAMATO UNYU (THAILAND) CO., LTD. 他の関連会社は、当期純利益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等がいずれも重要性に乏しく、全体としても連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため持分法の適用範囲から除外しております。

③ 持分法適用手続に関する特記事項

持分法適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度に係る計算書類または仮決算に基づく計算書類を使用しております。

(4) 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社のうち、YAMATO TRANSPORT U.S.A., INC. 他の在外連結子会社10社の決算日は12月31日であり、連結計算書類の作成に当たっては、決算日現在の計算書類を採用しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

(5) 会計方針に関する事項

① 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

② たな卸資産の評価基準および評価方法

先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

③ 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法 ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法

在外連結子会社は、見積耐用年数に基づく定額法

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法 ただし、ソフトウェアについては、見込利用可能期間5年以内の定額法

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

④ 引当金の計上基準

貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金……………従業員の賞与の支給に備えて、支給見込額に基づき計上しております。在外連結子会社は該当ありません。

⑤ 退職給付に係る会計処理の方法

i. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

ii. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生年度に全額費用処理しております。

数理計算上の差異は、各年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主に5年）による定額法により按分した額を、発生年度の翌期から費用処理しております。

iii. 未認識数理計算上の差異の会計処理方法

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

⑥ 収益の計上基準

割賦利益繰延

ショッピングクレジットに係る収益については、期日到来基準による均分法により計上しております。

- ⑦ 消費税および地方消費税の処理方法
税抜方式によっております。

2. 会計方針の変更

国際財務報告基準を適用している子会社は、当期より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下、「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を当期首の利益剰余金に計上しております。

なお、この変更による連結計算書類および1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

3. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額	520,368百万円
(2) 保証債務残高	
借入金等に対する債務保証	175百万円

4. 連結損益計算書に関する注記

減損損失

当期において、ヤマトグループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	地域	減損損失(百万円)
支店及び センター店 他	建物及び構築物 土地 他	ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社 貿易物流サービス事業(東京都中央区) 他 16件	990

ヤマトグループは管理会計上の区分、投資の意思決定を行う際の単位を基準として、ヤマト運輸株式会社については主に管下店を含む各主管支店および全ベース店、当社およびその他の連結子会社については事業部単位を基本としてグルーピングを行っております。

当期において、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社貿易物流サービス事業他16件の資産グループについて、営業活動から生ずる損益の継続的なマイナス、または、市場価格の著しい下落等が認められたため、当該資産グループに係る資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額990百万円を減損損失として特別損失に計上しました。

その主な内訳は、建物及び構築物720百万円、土地73百万円およびソフトウェア66百万円です。

なお、当該資産グループの回収可能価額を使用価値により測定する場合は、将来キャッシュ・フローを割引率4.32%で割り引いて算定しております。また、回収可能価額を正味売却価額により測定する場合は、主として不動産鑑定評価基準または固定資産税評価額もしくは公示価格に基づいて評価しております。

5. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
発行済株式				
普通株式	411,339	—	—	411,339
合計	411,339	—	—	411,339
自己株式				
普通株式(注)	17,065	9,059	0	26,124
合計	17,065	9,059	0	26,124

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加9,059千株は、自己株式の買付による増加9,058千株などであります。

普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

(2) 配当に関する事項

① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年5月15日 取締役会	普通株式	5,519	14	2019年3月31日	2019年6月4日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	5,914	15	2019年9月30日	2019年12月10日

② 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月20日 取締役会	普通株式	10,015	利益剰余金	26	2020年3月31日	2020年6月4日

(注) 1株当たり配当額26円には、記念配当10円を含んでおります。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

ヤマトグループは、さらなる事業の成長をはかるため、ネットワーク構築等に対する投資計画に照らし、必要資金を銀行借入や社債発行により調達しております。一時的な余剰資金については、安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は、主に借入金の金利変動リスクヘッジのために利用し、投機的な取引は実施しておりません。

また、一部の連結子会社では、リース業、信用購入あっせん業を行っております。

② 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金、割賦売掛金等は、取引相手先の信用リスクを伴っており、期日ごとの入金管理、未収残高管理を行い、各取引先の信用状況を把握する体制としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式や資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクを伴っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、その大半が1年以内の支払期日であります。

短期借入金および長期借入金は主に金融事業に係る資金調達であります。借入金は主に変動金利で調達しております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクを伴っておりますが、ヤマトグループでは、各社が資金決済、記帳、残高モニタリングおよび資金繰り管理を実施するなどのリスク管理を行っております。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には一定の前提条件等により合理的に算定された価額が含まれているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注) 5参照）。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金及び預金	197,226	197,226	—
② 受取手形及び売掛金	213,980		
貸倒引当金	△ 52		
	213,927	213,503	△ 424
③ 割賦売掛金	46,088		
貸倒引当金	△ 1,218		
割賦利益繰延	(5,028)		
	39,841	44,808	4,966
④ 投資有価証券			
その他有価証券	26,466	26,466	—
関連会社株式	8,045	9,229	1,183
⑤ 支払手形及び買掛金	(147,081)	(147,081)	—
⑥ 短期借入金	(75,500)	(75,497)	△ 2
⑦ 長期借入金	(14,000)	(14,001)	1

(注) 1. 連結貸借対照表計上額および時価において、負債に計上されているものは、() で示しております。

2. 受取手形及び売掛金においては、短期間で決済されない受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

3. 割賦売掛金においては、対応する貸倒引当金および割賦利益繰延を控除しております。

4. 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

① 現金及び預金

預金はすべて短期であり、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

② 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。なお、一部の受取手形及び売掛金は、債権の区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等の指標で割引いた現在価値により算定しております。

③ 割賦売掛金

割賦売掛金の時価については、債権ごとにその将来キャッシュ・フローを市場金利等の指標で割引いた現在価値により算定しております。

④ 投資有価証券

投資有価証券のうち上場株式の時価については、取引所の価格によっております。

⑤ 支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金については、その大半が1年以内の支払期日であり、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

⑥ 短期借入金、および⑦ 長期借入金

短期借入金および長期借入金の時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算出しております。

5. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	
関連会社株式	2,162
その他	3,636

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「④ 投資有価証券」には含めておりません。

7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,441円20銭
(2) 1株当たり当期純利益	56円78銭

8. 重要な後発事象

共通支配下の取引等

当社は、2020年1月23日開催の取締役会において、2021年4月1日付で、ヤマト運輸株式会社など連結子会社8社を吸収合併および吸収分割して、当社を純粋持株会社制から事業会社とする経営体制の再編を実施することを決議いたしました。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響等による諸手続きの遅延などの課題を回避するため、2020年5月15日開催の取締役会において、吸収合併および吸収分割の内容を変更し、当社は当該組織再編の当事者からは除外し、当社の連結子会社であるヤマト運輸株式会社と、ヤマトロジスティクス株式会社、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社を含む連結子会社7社の間で吸収合併および吸収分割する再編とすることを決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) ヤマト運輸株式会社を吸収合併存続会社とする吸収合併

① 結合当事企業の名称およびその事業の内容

i. 吸収合併存続会社

名称 : ヤマト運輸株式会社

事業内容 : 一般個人消費者・企業向け小口貨物輸送事業（宅急便事業、クロネコDM便事業など）

ii. 吸収合併消滅会社

名称 : ヤマトグローバルエクスプレス株式会社

事業内容 : 企業向け小口貨物輸送事業（国内航空貨物輸送事業など）

名称 : ヤマトロジスティクス株式会社

事業内容 : 企業向け物流事業（ロジスティクス事業、メディカル製品物流サービス、メンテナンスサポートサービス、リコールサポートサービスなどの総合支援事業）

名称 : ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社

事業内容 : 国際航空貨物、海上貨物の取扱、輸出入通関事業、国際引越等の海外生活支援サービス事業、美術品輸送事業

名称 : ヤマトパッキングサービス株式会社

事業内容 : 梱包・荷役輸送事業

名称 : ヤマト包装技術研究所株式会社

事業内容 : 包装容器および資材の研究開発事業・販売事業

名称 : ヤマトフィナンシャル株式会社

事業内容 : 企業、一般消費者向け決済事業（宅急便コレクト、ネット総合決済サービスなど）

② 企業結合日

2021年4月1日（予定）

③ 企業結合の法的形式

ヤマトグローバルエクスプレス株式会社、ヤマトロジスティクス株式会社、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社、ヤマトパッキングサービス株式会社、ヤマ

ト包装技術研究所株式会社、ヤマトフィナンシャル株式会社の6社を吸収合併消滅会社、ヤマト運輸株式会社を吸収合併存続会社とする吸収合併

- ④ 結合後企業の名称
変更ありません。

(2) ヤマト運輸株式会社を吸収分割承継会社とする吸収分割

- ① 対象となる事業の名称およびその事業の内容

事業名称：ヤマトシステム開発株式会社のe通販ソリューション事業

事業内容：通販事業の立ち上げはもとより事業の成長を支援するために、システムと運用をお客様に適したパッケージで提供

事業名称：ヤマトシステム開発株式会社の地域統括部門

事業内容：販売部門

- ② 企業結合日

2021年4月1日（予定）

- ③ 企業結合の法的形式

ヤマトシステム開発株式会社を吸収分割会社、ヤマト運輸株式会社を吸収分割承継会社とする吸収分割

- ④ 結合後企業の名称

変更ありません。

(3) 取引の目的を含む取引の概要

ヤマトグループは、現中期経営計画「KAIKAKU 2019 for NEXT100」の成果と課題、外的環境の変化を踏まえ、今後の当社グループにおける、中長期の経営のグランドデザインとして経営構造改革プラン「YAMATO NEXT100」を策定しました。

当プランに基づき、現在の機能単位の部分最適を、顧客セグメント単位の全体最適な組織に変革し、経営のスピードをより速めるため、2021年4月、現在の経営体制から、リテール・地域法人・グローバル法人・ECの4事業本部と、4つの機能本部からなる経営体制に移行するものであります。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 2019年1月16日）および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日）に基づき、共通支配下の取引として処理を行う予定であります。

個別注記表

1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記
 - (1) 有価証券の評価基準および評価方法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - 時価のないもの……………移動平均法による原価法
 - 関係会社株式……………移動平均法による原価法
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産……………主として定額法
 - 無形固定資産……………定額法　ただし、ソフトウェアについては、見込利用可能期間5年以内の定額法
 - (3) 引当金の計上基準
 - 貸倒引当金……………債権の貸倒れによる損失に備えて、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - 投資損失引当金……………関係会社への投資に対する損失に備えて、当該会社の財政状態および回収可能性を勘案して計上しております。
 - 賞与引当金……………従業員の賞与の支給に備えて、支給見込額に基づき計上しております。
 - 退職給付引当金……………従業員の退職給付に備えて、当期末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。
 - ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
 - ② 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、発生年度の翌期から費用処理しております。
 - (4) 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。
 - (5) 消費税および地方消費税の処理方法
税抜方式によっております。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額		598百万円
(2) 保証債務残高		
① 通運計算契約に基づく連帯保証		300百万円
② 借入金等に対する債務保証		425百万円
(3) 関係会社に対する金銭債権および金銭債務		
短期金銭債権		106,819百万円
長期金銭債権		24,643百万円
短期金銭債務		104,349百万円

4. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	営業収益	49,790百万円
	営業費用	2,035百万円
	営業取引以外の取引高	715百万円

5. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項 (単位：千株)

	当期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式 (注)	17,065	9,059	0	26,124

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加9,059千株は、自己株式の買付による増加9,058千株など
であります。

普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の売渡しによる減少であります。

6. 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

賞与引当金	33百万円
退職給付引当金	27
投資有価証券評価損	726
関係会社株式	48,655
税務上の繰越欠損金	481
その他の	4,619
小計	54,543
評価性引当額	△ 53,984
計	559

繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△ 1,621
その他の	△ 45
計	△ 1,667

繰延税金資産 (△負債) の純額	△ 1,107
------------------	---------

7. 関連当事者との取引に関する注記

子会社等

(単位：百万円)

種類	会社の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容	議決権等の所有割合	関係内容
						役員の兼任等
子会社	ヤマト運輸(株)	東京都中央区	50,000	宅急便事業 クロネコDM便事業	所有 直接 100.00%	兼任 2名
子会社	ヤマトグローバルエクスプレス(株)	東京都港区	1,000	国内航空貨物輸送事業	所有 直接 100.00%	なし
子会社	ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)	東京都中央区	1,880	国際航空貨物、海上貨物輸送事業	所有 直接 100.00%	兼任 1名
子会社	ヤマトホームコンビニエンス(株)	東京都中央区	480	引越および生活関連事業	所有 直接 100.00%	兼任 2名
子会社	ヤマトシステム開発(株)	東京都江東区	1,800	システムの開発	所有 直接 100.00%	兼任 2名
子会社	ヤマトフィナンシャル(株)	東京都中央区	1,000	決済代行業	所有 直接 100.00%	兼任 2名
子会社	ヤマトクレジットファイナンス(株)	東京都豊島区	500	割賦金融業	所有 直接 70.00%	なし
子会社	ヤマトリース(株)	東京都豊島区	30	総合リース業	所有 直接 100.00%	兼任 1名
子会社	ヤマトオートワークス(株)	東京都中央区	30	車両管理サービス事業	所有 直接 100.00%	兼任 1名

(単位：百万円)

種類	会社の名称	関係内容	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
		事業上の関係				
子会社	ヤマト運輸(株)	経営管理資金の貸付	経営管理料の受取	7,287	—	—
			運転資金の返済	8,676	短期貸付金	2,864
			設備資金の返済	1,296		
			利息の受取	13		
			資金貸借	△28,620	預り金	38,684
			利息の支払	5		
子会社	ヤマトグローバルエクスプレス(株)	経営管理	資金貸借	△782	預り金	6,069
			利息の支払	0		
子会社	ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)	経営管理資金の貸付	運転資金の返済	1,933	—	—
			設備資金の貸付	1,450		
			設備資金の返済	7,000		
			利息の受取	16		
子会社	ヤマトホームコンビニエンス(株)	経営管理資金の貸付	運転資金の貸付	11,132	長期貸付金	13,927
			利息の受取	8		
子会社	ヤマトシステム開発(株)	経営管理	資金貸借	4,376	預り金	19,793
			利息の支払	1		
子会社	ヤマトフィナンシャル(株)	経営管理	資金貸借	△11,628	預り金	18,902
			利息の支払	1		
子会社	ヤマトクレジットファイナンス(株)	経営管理資金の貸付	運転資金の貸付	6,500	短期貸付金 長期貸付金	6,461 6,500
			運転資金の返済	391		
			利息の受取	10		

(単位：百万円)

種 類	会社の名称	関係内容	取引の内容	取引金額	科 目	期末残高
		事業上の関係				
子会社	ヤマトリース(株)	経営管理 資金の貸付	運転資金の貸付	20,000	短 期 貸 付 金	94,272
			運転資金の返済	1,233		
			利息の受取	118		
子会社	ヤマトオート ワークス(株)	経営管理	資 金 貸 借	△152	預 り 金	7,837
			利息の支払	0		

(注) 取引条件および取引条件の決定方針等

- ① 経営管理料につきましては、業務内容等を勘案し、双方協議の上合理的に決定しております。
- ② 預り金および貸付金の金利につきましては、市場金利に基づき決定しております。
- ③ 資金貸借の取引金額は期中の純増減額を記載しております。
- ④ ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社およびヤマトホームコンビニエンス株式会社に対する運転資金の取引金額は期中の純増減額を記載しております。
- ⑤ ヤマトクレジットファイナンス株式会社およびヤマトリース株式会社に対する運転資金の返済の取引金額は期中の純増減額を記載しております。
- ⑥ 子会社の事業損失に備えるため、貸付金に対し、当期において、貸倒引当金繰入額10,325百万円を計上しております。この結果、貸倒引当金の残高は10,325百万円となっております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	848円90銭
(2) 1株当たり当期純利益	41円13銭